

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)  
1 対 1 対談 (御浜町) 会議録**

**1. 対談時間**

平成 28 年 7 月 8 日 (金) 13 時 30 分～14 時 30 分

**2. 対談場所**

紀南病院組合立 紀南病院 南牟婁郡 御浜町 阿田和 4750

**3. 対談市町名**

御浜町 御浜町長 (大畑 覚)

**4. 対談項目**

- 1 近畿自動車道紀勢線 (新宮～熊野間) の早期事業化について
- 2 三重県地域医療構想における紀南病院の機能維持について
- 3 紀南病院における産婦人科診療の再開に向けた専門医師の確保  
に対する支援について

**5. 会議録**

**(1) あいさつ**

**知 事**

皆さん、こんにちは。大畑町長におかれましては、大変お忙しい中、1 対 1 対談のお時間をいただきましてありがとうございます。

まず、今年で平成 23 年の紀伊半島大水害から 5 年を迎えることとなります。改めまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、本日まで復旧・復興に向けて多大なご尽力をいただいた御浜町職員の皆さん、町民の皆さん、多くの皆さんに心から敬意と感謝を申し上げます。

これからもまた皆さんと一緒に地域の活性化に向けて頑張っていきたいと思います。

さて、先般 5 月 26 日、27 日に伊勢志摩サミットが開催されました。御浜町の皆さんにも「クリーンアップ活動」、「花いっぱい運動」など、多くのところでご協力いただき、無事に大成功という形で終えることができました。

ちなみに、首脳のコーヒーブレイクやカクテルパーティーでは、有限会社御浜柑橘の「孫心完熟みかんジュース」が提供されましたし、国際メディアセンターでは J A 三重南紀のカラマンダリン、株式会社かきうち農園の「100%みかんジュース」、有限会社すぎもと農園の「セミノール青みかんどリンク」などが提供されました。1 年中ミカンがとれる柑橘の町、御浜のミカンがしっかりと発信され、非常によかったと思いましたが、食材の調達にあたり、大変ご苦労いただきましたことに感謝いたします。

それから、去年の9月に新しい選果場を更新されたとのことであり、また、このパーク七里御浜が平成27年度の重点道の駅に指定され、柑橘を生かして地域活性化を図っていく、そういった大変良いニュースもお聞きしております。

そういう中で、今日、大変重要な議題を3つ議論させていただきますので、限られた時間ではございますが、有意義に過ごしたいと思っております。よろしく願いいたします。

## 御浜町長

改めまして、こんにちは。町長の大畑でございます。

本日は、知事との1対1対談ということでお時間を設けていただき、誠にありがとうございます。また、鈴木知事には日頃からこの御浜町のみならず、東紀州地域全体の行政の推進に格別のご理解とご配慮、ご支援を賜っており、心から感謝を申し上げます。

さて、先ほど知事のほうからもお話がございましたが、伊勢志摩サミットでは開催県の知事として大変ご尽力をいただき、このサミットが無事に成功されたことにお祝いを申し上げたいと思っております。

また、御浜町の特産品でありますミカンあるいはジュースを活用いただき、誠にありがとうございます。サミット開催後も管内の特産品を色々な取組で活用し、御浜町の知名度を更にとって地域の活性化を図っていきたくと考えておりますので、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

それから、県より副町長として派遣いただいております中平氏につきましては、大変いい仕事をしていただいております、改めて感謝を申し上げます。土木行政のみならず御浜町の活性化について、あらゆる面で提案や企画を出していただき、しっかりと取り組んでいただいております。特に懸案でありました県道御浜紀和線、萩内海岸の堤防につきましては、事業の道筋をつけていただき、県ともしっかりと連携しながら取り組んでいただいておりますことを感謝申し上げます。

本日は、近畿自動車道紀勢線の新宮から熊野間の早期事業化、そして、県が策定を進めております地域医療構想における紀南病院の機能維持、紀南病院における産婦人科の診療の再開に向けた専門医の獲得に向けた支援の3点について、対談をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

## (2) 対談

### ① 近畿自動車道紀勢線（新宮～熊野間）の早期事業化について

#### 御浜町長

まず、項目1の近畿自動車道紀勢線の新宮から熊野間の早期の事業化ですが、知事におかれましては、これまで国交省あるいは国交大臣等々へ精力的に要望、行政活動を行っていただいております、そのことについて、まず感謝を申し上げたいと思います。

私ども熊野・尾鷲間の同盟会、そして、熊野・新宮間の同盟会といたしましても、毎年2回、知事を経由して国に陳情に行っているところです。

そういう中で、平成24年度には、熊野尾鷲道路の第2期工事、そして、25年度には新宮から紀宝間の事業化、さらに、26年度には熊野市の大泊から久生屋までの事業化を指定いただき、その進捗に合わせて地元説明会等も行われ、順調に事業が進められていると思っています。

高速道路が熊野市まで延伸されたことで、御浜町でもメリットが出てきておりますし、ストック効果といいますか、そういった効果が現れています。特に先ほどから話題となっておりますミカンに関しましては、まずタイへの輸出が順調で、現在20トンまで伸びており、大体5年前の10倍ほどに伸びています。

それと、輸送中の荷傷みが解消されたこと、その間の輸送時間が短縮されたということです。さらに、雨の日の通行止めが解消されたことなど、多くのメリットが出てきています。

ただし、今後、想定される災害時において、一般国道42号が通れなくなることが懸念される中で、ダブルネットワークの構築という意味で、高規格道路の整備が急がれることから、一刻も早く未事業化の区間の事業化を求めているところです。

また、先の話にはなりますが、平成32年にRDF焼却・発電事業が終了しますので、現在、東紀州全体で取り組む広域でのごみの処理について検討を始めておりますが、その設置場所は現時点では尾鷲市内と定めています。そういった検討を進めるにあたって、高規格道路の必要性がますます高まってくると考えており、一刻も早い事業化をお願いしたいと思っています。

なお、現在の計画段階評価は、平成24年度に行われたもので、来年度で5年を迎えますが、5年を経過してしまうと、もう一度はじめから評価をやり直すことになるかと伺っております。そういう意味では、29年度は最後のチャンス的一年であり、採択をぜひともしていただくように国へ要望して

いきたいと思っており、今月中にも同盟会で要望に行く予定でおります。そういった諸事情を知事にもしっかりとご理解いただきまして、引き続き、国への要望を一緒にお願ひしたいので、よろしくお願ひいたします。

## 知 事

私が知事に就任した平成 23 年に紀伊半島大水害があったこともあり、この近畿自動車道紀勢線は、なんとしても事業化を進めていかなければならないと考えてきた道路であります。また、それ以前からもずっと地域の皆さんが同盟会としてご活動をいただいております、地域の皆さんにとって悲願の道路でありますので、県が国に対してお願ひをしていく道路に関する要望の中でも、最も優先順位の高いものの一つとして、次年度以降も引き続き取り組んでいきたいと思っております。

災害の観点から申し上げます、今年 4 月に発生した熊本地震では、全体的には避難所に救援物資がなかなか届かなかったという報道がありました。九州まで、熊本までの輸送においては、九州自動車道が大いに活躍をしたということでありました。また、東日本大震災において「くしの歯作戦」などで高速道路が大変活躍したことを考えれば、国道 42 号が浸水区域にある中で、まさに命の道として近畿自動車道紀勢線の新宮から熊野間を早期に事業化することが大変重要であると思っております。

我々も最近の要望資料において、高速道路が通ることを見越して紀南病院が改修されたことなどを PR させていただいております、まさに命の道としてしっかり要望してまいります。

加えて、先ほどミカンの輸出の話をしていただきましたが、タイへのミカン輸出は、日本で三重県と静岡県しか成功しておりません。タイはとても検疫が厳しく、それに耐え得る高い技術と高い安全性を持ったミカンを生産しているのが、この御浜町ということになりますので、更に増やしていきたいと思っております。

また、この近畿自動車道紀勢線が、勢和多気から大宮大台まで延伸した頃から、東紀州地域への観光入込客数は、当時の 140 万人程から、直近で 190 万人程にまで伸びています。東紀州全体に高速道路が整備されれば、更に入込客数は増えるだろうと思っておりますし、東紀州地域の企業の皆さんへのアンケートで、この紀勢線が延伸したことで、業績にプラスの影響があったと感じている方が 9 割に上る状況となっていることから、産業振興の観点でも、この紀勢線が大変重要であると思っております。

それから、何といたっても、先ほど町長からおっしゃっていただきましたとおり、計画段階評価が完了してから来年度で 5 年目となりますので、このタイミングを逸することがないよう、しっかりと要望をしていきたいと

思います。この6月に石井大臣を訪問してまいりましたし、2月には国土交通省の幹部職員に、仁坂知事と一緒に要望してきました。また、国土交通省の人事異動があったことから、8月には、この話をしてこようかと考えております。

とにかく、地域の熱い思いをぶつけて、なんとしても実現するように努力をしていきたいと思っておりますので、皆さんと一緒に頑張っていければと思います。

### **御浜町長**

観光入込客数の件につきましては、知事がお話しいただきましたように、重点道の駅となったこと、そして、農林関係の国の事業費をいただいて、ジュース工場を拡大していくということでございます。

今、入込客数は3年前から約20%伸びており、当時15万人弱だったものが、17万6千人程度にまで伸びておりますことから、高速道路の効果が現れているのかと思っております。

この高速道路を使うに当たっては、もう1点、畜産業がございまして。大内山牛乳の7割程は、御浜町の「御浜ファーム」の牛乳となっており、その搬送が非常に便利になったとお聞きしております。高速道路の効果は、大きいと思っております。

平成27、28年度の2年、事業化となっておらず、3年連続とならないように、国へ一緒になって要望活動をお願いします。

### **知 事**

「御浜ファーム」のおかげで、一農場当たりの育てている牛の頭数は、三重県が全国1位か2位となっており、大内山牛乳の製品がサミットでも使われており、おっしゃるとおりだと思います。

## ② 三重県地域医療構想における紀南病院の機能維持について

### 御浜町長

項目2の「三重県地域医療構想における紀南病院の機能維持」についてでございます。平成27年度から地域医療構想調整会議で議論がなされており、平成28年度中に、県の地域医療構想が策定されると伺っております。

紀南病院は東紀州管内の二次医療病院であり、急性期機能の維持・充実、そして、救急患者の受け入れ、あるいは、災害時の拠点病院としての役割を果たしていくことが必要だと考えております。

このほど紀南病院の新館が完成しましたが、一定の病床数の削減も含めて、ご理解、ご了解を得て、建築されておりますので、今後も現時点の規模を維持していきたいと考えています。

一方、県の地域医療構想の中では、病院機能の分化、あるいは連携が謳われており、人口の減少に伴う受療者数の減を見込んだ病床数を設定し、病床数を削減する議論がなされておりますが、地域の事情を十分に考慮していただき、以下の3点が地域医療構想に反映されるよう、要望させていただきます。

1点目として、紀南病院の病床数及び病床機能につきましては、現在の244病床を基本に、回復期機能とともに地域の特性を勘案し、急性期機能も、今後、維持していただくこと。

もう一つ、紀南病院は救急救命患者の受け入れ体制、あるいは、災害時の医療の拠点病院としての機能を確保し、維持していくことで、本地域における中核的な二次医療病院としての役割を担うものとする。

それから、在宅医療等の供給体制につきまして、開業医の高齢化、そして、看護師等の医療従事者の不足など、極めて厳しい状況にある中では、医療と介護の一体的な取り組みが不可欠であると思っておりますので、各市町、紀南病院、医療機関との連携強化に、県が中心となって関わっていただきたいと思っております。どうかよろしく申し上げます。

### 知事

今、町長からおっしゃっていただきましたとおり、2025年を想定して、地域ごとの医療需要や医療機能別の病床必要量などの医療提供体制を実現するための施策を盛り込んだものが地域医療構想であります。

それを平成28年度中に策定する方向で、現在、検討を進めていますが、さまざまな地域事情がありますので、丁寧に地域の皆さんと議論しながら進めていくことが大前提であると思っております。

他県の状況を見ても、おおむね殆どの県が、今年度中の策定を予定して

おりますので、スケジュールの中で、いつかは色々と決めなければいけない場面は来ますが、しっかりと丁寧に議論していくことを旨としたいと思っています。

そもそも、新公立病院改革ガイドラインでは、過去3年間、連続して一般病床と療養病床の病床利用率が70%未満の病院は、その抜本的な見直しを検討すべきとされており、平成26年度の病床機能報告によれば、東紀州地域は回復機能の一層の充実が求められる状況となっています。

そういった中で、東紀州地域の地域医療構想調整会議でも、未稼働病床の実態を把握して整理していくことについては、一定、合意を得ていると思っています。

紀南病院は、削減対象となる病床が発生してはいるものの、これは今回の病床削減を伴った病棟改修を含まない条件となっていますので、地域医療構想においては削減対象としない予定であります。

救急医療につきましても、地域の受療状況は流出超過になっていますが、紀南病院の急性期機能を、当面は、維持することとしたいと思っています。

今後の人口動態などを踏まえて、同じ東紀州地域の他の病院との機能分担や連携は、改めて検討することが必要だと思っていますが、当面は、紀南病院の急性期機能は維持すると考えています。こういったことは地域医療構想調整会議で検討し、方向性という形で取りまとめたところですが、

それから、在宅医療の供給体制については、基本的には市町と地域の医師会の皆さんが緊密に連携して進めていただく中で、県は、相談窓口を設置したり、チーム態勢などを含めたフレームワーク、これは、こんなことに取り組んでくださいとか、構成要素はこれぐらいの規模でとか、最低限ここまで進めてくださいというような内容ですが、これを県が策定して、市町の取組状況も見ながら、地域の実情に応じた支援をしていく形にしたいと思っています。そういうフレームワークの中で市町の皆さんや、医師会の皆さんと一緒に議論をしていただくことを基本としながら、フレームワークとの齟齬であるとか、地域の実情を踏まえてどういう支援が必要なのかということも議論させていただき、進めていければと思っています。

また、在宅医療は顔が見えない関係ではできませんから、関係者の皆さんが、しっかり顔が見える関係になれるようにということも含めて、しっかりサポートしていきたいと思っています。

## 御浜町長

知事の心強いお言葉をいただきました。紀南病院の事情を考慮していただき、現在の244病床を基本としていただくことを、ありがたく思います。

これから3年間、調査は続けられるとのことですので、未稼働病床が出

ないよう、70%の稼働率を必ずクリアできるよう運営していきたいと思っておりますが、医師の数については、どうしても三重大学のご理解とご支援をいただかないと、なかなか難しいことをございまして、医師の確保は非常に厳しい現状にあることもご理解をいただきたいと思います。

急性期機能については、尾鷲総合病院と紀南病院とでしっかりと機能を維持していくことが必要だと思っておりますので、知事からも当面の維持ということをはっきりとおっしゃっていただきましたので、本当にありがたいと思っているところでございます。

また、在宅医療の関係につきましても、開業医の方の年齢が高くなっていく中、なかなか開業医だけでは賄いきれないというところもあります。当然、紀南病院としても、そういう点では一緒になって地域医療に関わっていかなければならないと思っておりますが、いずれにしても開業医の先生、そして、紀南病院の先生とともに、人数的に非常に厳しい状況がございますので、その点も含めて県のご支援、あるいは、側面的なご協力をいただきたいと思います。

### ③ 紀南病院における産婦人科診療の再開に向けた専門医師の確保に対する支援について

#### 御浜町長

それでは、3点目、紀南病院における産婦人科診療の再開に向けた専門医師の確保に対する支援についてでございます。

紀南病院の産婦人科は、昨年9月に分娩を休止し、今年の4月には婦人科も休止となっております。一時は3名であった医師が、今はゼロとなっております。この紀南病院は、三重大学からの派遣医師、あるいは自治医科大学の医師で構成されておりますが、三重大学から派遣されていた産婦人科医師が引き上げとなったところです。

紀南病院の産婦人科は約40年続いた長い歴史がありますが、それが途切れたことは、非常に残念であり、地域に根ざし、住民の方に寄り添い、そして、出産、女性の健康を守り続けた、地域にとってなくてはならない産婦人科の休止に、非常に心を痛めております。熊野市には開業医の先生1名おられますし、新宮市には、医療センターと2名の開業医がおられ、そういう意味では出産、子育てを地域全体で守り、子どもを育てていくことに変わりはないわけですが、出産にリスクのある、あるいは既往症のある患者さんにとって、近くの総合病院を受診できるということは、非常に安心感がありますので、紀南病院の産婦人科が今、休止になっていることは非常に切実な問題です。



一方で、地方創生では、人口減少対策、あるいは、少子高齢化対策に取り組んでいくわけですが、産婦人科が休診状態というのは、私としてはあってはならない状態だと思っています。出産、子育てのしやすい生活環境を整えて、若い世代の定住を目指し、過疎化、急激な人口減少に歯止めをかけるためには、産婦人科の充実は非常に重要です。一刻も早い産婦人科診療の復活を図るべく、三重大学に対する要望も継続しながら、専門医師の確保に努力をしていきたいと思っています。

県におかれましても、そういった情報あるいは助言等をいただきまして、紀南病院の医師確保につながる効果的なご支援をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

## 知 事

現在、紀南病院が産婦人科診療を休止していることは、県としても大変重大な問題であると思っています。今、こういう地方創生の折でもありますので、安心して妊娠・出産・子育てができる態勢を早く整えていかなければならないことは、私たちも大変切実に思っているところです。

私自身も3カ月前に2人目の子どもが生まれまして、長男は4歳ですが、いずれも妻の大変な様子だとか、その出産後の状況を見ても、なるだけ近いところ、安心できる距離に総合病院があることが大変重要であると思っています。

紀南病院への産婦人科医師の派遣については、三重大学に対して、これまでも要請をしてきたところですが、人口10万人当たりの産婦人科医師数が、三重県全体でも全国平均を下回っている状況の中で、パイの問題もあり、三重大学から紀南病院への派遣は実現に至っていない状況にあります。

我々としても、しっかり紀南病院の切実な状況を、三重大学などに働きかけて要請するとともに、平成29年度からは専門医制度が新たにスタートしますので、県内の産婦人科医のパイを拡大するため、三重県に来て産婦人科の専門医研修を受けるといい、研修しやすい、自分のキャリアパスにとっていいと思ってもらえるよう、研修プログラムを魅力的にすることにとりわけ力を入れていきたいと思っています。

紀南病院に派遣してくださいと三重大学へ要請を行うとともに、県全体の医師数をそもそも大きく増やしていく両方が必要だと思いますが、県としては、全体的に切実である医師数を増やしていくための研修プログラムの充実について、働きかけていきたいと思っています。

引き続き、医師のみならず医療関係従事者、助産師もそうですが、地域偏在、診療科偏在がある状況を、大変重大に思っておりますので、ぜひ協力して、なんとしてもこの状況から抜け出していけるように努力をしてい

きたいと思います。

### **御浜町長**

紀南病院へ医師を派遣いただくためには、三重大学に、それだけの先生がおられなければいけないという問題が当然あります。また、産婦人科を目指す医師が少ないとも聞いております。

将来的な課題として、例えば、そういった産婦人科のような診療科を目指す方に対して、奨学金のような制度、今も奨学金はありますが、それを極力返済が軽くなるような制度も、医師の育て方の一つの方法として、検討していただきたいと思いますし、町としても、できるだけ学生の段階から、そういった支援もしていけたらと考えております。財源的なことも含めて、今後の課題として県と一緒に考えていきたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

## **4 閉 会**

### **知 事**

大畑町長、ありがとうございました。

近畿自動車道紀勢線の期成同盟会を和歌山県と一緒に取り組む際に、あるいは、全国高速道路建設促進協議会の副会長を務めさせていただいており、その全体会でも申し上げるのですが、地方創生と称して、地域間競争をなささい、みんなで知恵を出しなさい、工夫をなささい、頑張りなさいと言われますが、競争条件が一緒でないと、なかなか競争はできません。それは例えばインフラの状況であるとか、最低限の医療サービスですが、今日、改めて大畑町長から、地方創生を一生懸命に頑張るけれども、前段の競争条件を一緒にして、そこからスタートさせてほしいという大変重要な議題をいただいたと思います。

県としましても、最大限、努力してまいりたいと思いますので、よろしく願います。本日はどうもありがとうございました。